

京急蒲田駅西口再開発第二街区協議会

平成26年度会員総会
第13回 まちづくり勉強会

京蒲第二協
ニュース Vol.10

蒲田八幡神社 社務所 2月23日 (月) 午後3時より

●●平成26年度会員総会が終了しました

出席数・委任状数が過半となり総会が成立して議長及び議事録署名人を選出後、一号議案:活動報告 二号議案:会計報告 三号議案:活動計画案 四号議案:予算案 五号議案:役員(改正)選任が全て承認可決されました。総会後の互選で決まった役職は次の通りです。

会長:日下賢二 副会長:橋本しのぶ 渡邊泰弘 役員:當間幹夫 長田常治 監事:上野了一 (以上再任) 会計:小山昭男 役員:伊藤元宜 (以上新任)

2代目役員には大いに期待が寄せられますが、ここで新旧役員から「様々な試行錯誤があった初年度」を振り返るコメントがありましたので、その一部を紹介します。



会長:日下賢二

この一年間、全て手強い事柄の連続でした。それでも、地域社会(当協議会内部、街づくり応援団、社寺職者、マンション住民・商店主、大田区職員、大田区議会議員)、東京都職員、霞が関・永田町の方々とはビックリする様な体験をして楽しんであります。これからも岩盤規制を打破しつつ、皆の手でハードウェアだけでなく、地域の街づくり/街おこしに励んでまいります。速度を速めながら……。新役員体制も決まり気持ちも新たにしていきたいです。

京蒲第二協を立ち上げ、色々な事が有りました。大きな行事として意見書を提出致しましたが、結果は地区計画決定となってしまいました。勉強会はもっと街の方が大勢参加できるようにしていきたいです。以後は地区計画推進の方々との話し合いが大事と考えます。今期から役員として参加していきます。



新役員・旧会計:伊藤元宜



旧役員:小山富美江

1年を振り返り、私達がこれから迎える今後の生活や生きていく街を変えて行きたいとの思いで協議会の役員として本気で勉強して参加いたしました。目まぐるしい中であっという間の一年でした。二年目は役員退任し主人にバトンタッチしますので、別のかたちで協力して行きたいとおもいます。

この度会計になりました小山です、蒲田に住みはや28年となりましたが今まで会社との往復の毎日でしたが蒲田を永住の地と決め日々変化する街をここで暮らす方の不安や希望に耳を傾ける協議会と思い参加しております。



新会計:小山昭男



監事:上野了一

まちの皆さんが一致団結して大きなまちづくりにする姿、これが未来を作っていく原動力です。時間はあっという間です。もっともっとスピード感を持って活動していきましょう。

●●今回は渡辺の 目線で導入用途の視察をご報告させていただきます

私は親子三代蒲田産まれの蒲田育ちで、現在もこのエリアに実際に住み、このエリアで小さいながらも商売をやらせて頂いている生粋の蒲田人として、このまちの未来を本気で考えて行動している一人です。その昔、この街に住み、この街で商売を営んでいて現在は違う街にお住いの地主さんとは多少蒲田に思い入れる情熱が違うのはご勘弁ください、蒲田を想うが故の小生意気と笑って頂けたら幸いです。

一つの例として『福沢諭吉』について肯定的な評価を3人がしたとしましょう。

Aさん:『福沢諭吉』はすごいよね!

Bさん:『福沢諭吉』は慶應義塾大学をつくってすごいよね!

Cさん:『福沢諭吉』は日本を変えてやると中岡慎太郎たちが騒いでいた頃、次の時代には学問というものが必ず必要になると考え慶應義塾大学をつくった所がすごいよね!



Aさん Bさん Cさん どの方の意見が正確で精度が高いでしょうか?

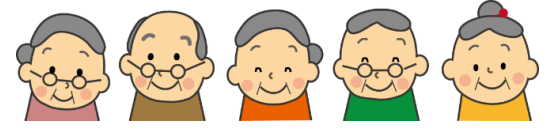
3人の意見は同じですが、その言葉の信用度とクオリティーは格段に違います。その違いは、知識という土台からなるものと言うまでもありませんが、私はCさんの様に信用度とハイクオリティーな知識を持たなければ、まちの皆様と協議会として、まちづくりだなんてお話を進める事などあってはならぬと考えております。そこに住む方、商売をされる方、権利を所有される方、皆様の財産や生活に関わる事だからです。当協議会においても、全力でCさんの様な『精度の高い知識』を学んで皆様と話し合い、まちづくりを選択できる明るい未来に微力ながら取り組むのは責務とっております。当事務局では、導入用途で紹介したものを翌月の勉強会には実際に足を運び地域の生の声を聞き調査されるので、言いだしっぺには冷や汗もかいて頂くと、禪も締め直して頂きますので、大変やりにくいとは思いますが、それこそが協働であり、区民の責務である地域力の源でもあり精度の高さとなり、良いまちへの一歩になると確信しております。私たち区民はスコップも持てない、設計もできない、制度を利用し公的資金を捻出することもできませんが、本気で勉強し知識を持つことはできるはずですから……。これこそ大田区マスタープランの基本理念でもある本当の『協働』ではないでしょうか!

●● 大街区まちづくり だからできる 導入用途施設について 『 高齢者ケア施設 』

住み慣れたまちで 昔ながらの付き合いを 続けて暮らすまち 蒲田がいいね！

前回の勉強会にて『高齢者のすまい』の執筆者、菅野氏に高齢者の住まいについて講義していただきました。中でも私達が心を惹かれたポイントが下記の二点となります。

- ・住み慣れたまちで昔ながらの付き合いを続けて暮らす
- ・ほどよい見守りのある安心生活



という事でした、つまり **個を確保しながら集い、つながり、安心を持つ住まい** という事になります。まちづくりの中に絶対必要な導入用途の一つだと改めて思いました。そこで今回は静岡県熱海市を視察して参りましたのでご報告させていただきます。



私達の大田区人口は現在約70万人となっております秋田県の人口とほぼ同じとなります、高齢者数は14万7千人で**21.7%**ですので5人に1人は**高齢者**という事です、東京都で見ると8番目に高いのです。結構深刻なお話だと考えられますが、24年度のデータで5630人が生まれ5968人がお亡くなりになられておりまして、人口推移的には増減がほぼない、安定した人口推移となっております。熱海市で見ると高齢者率は**38.6%**で3人に1人以上**高齢者**で、実は**日本の30年後の姿**として**高齢者問題を語るうえで全国から注目されているエリア**となっているのです。

熱海市は153人が生まれ722人がお亡くなりになっている数値をみても少子高齢化問題の最先端をいくという事が伺えます。実際に街に出て観光地以外のエリアに入ると高齢者の方しか目につかないのです、しかし熱海市はその問題に正面から向き合い『この街に生まれ育つ人々はもちろんこと**熱海を愛して移り住む人々すべてが熱海活性化の資源**』ととらえ健康をサポートし健康でいきいきとした生活がおくれるよう健康づくり施策に力を入れております。つまり高齢者の移住も大歓迎しているという事なのです、課題を先送りしたり、目をつぶるのではなく正面からポジティブに資源ととらえ活動する行政の取り組みに現場をみて正直感動して来ました。



今回どうしても見て来たかったのが高齢者のケア付き住宅でリゾートマンションを改築し高齢者の暮らしに特化した施設がたくさんある中の一つを見学させていただきました、案内してくれたのは**蒲田生まれ蒲田育ちのKさん**で5年前に二本の杖で歩くようになり不安を抱え高齢ケア付きの熱海に移住されて現在は杖なしで歩いておりましたがここでの暮らしサポートのおかげと行政をほめておりました。

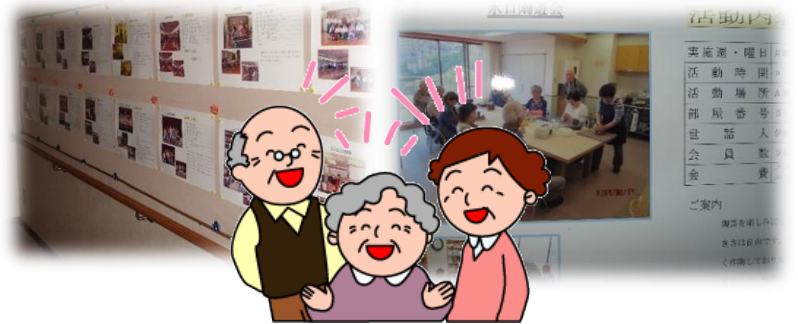


玄関までお出迎え頂き、蒲田の名物『谷口さんの甘納豆』を手土産にしましたが大変喜んで頂き蒲田を懐かしんでおられました。館内に入ると広々とした40席の豪華なエントランスソファで楽しそうに会話を楽しむ様子で熱海の海が一望でした。受付で入館許可を頂きいよいよ潜入です、現在ほぼ満室状態で400名程の方がお住まいだそうです。サークルが30以上あり陶芸やダンスなど月額なんと、数百円で参加でき設備も素晴らしいのです、寝たきり入浴施設や車いす入浴設備もあり大浴場も完備され廊下も一切の段差もなく25Mごとにトイレやベンチもあり何から何まで優しい施設でした。お部屋も高齢者が暮らしやすい38㎡で当然ユニバーサルデザインが施され健康者からみてもここで暮らしたいと感じるほどの工夫が多々ございましたが、中でもあちこちにナースコールボタンがあり**一人暮らしでも守られている**という**安心感が一番の魅力的な点**でした、押せば数分で医療スタッフが飛んで来てくれます。様々な外部支援も入りそれを利用しながら**自立した生活をおくれるこの環境**に両親を住まわせない自分自身に情けなさとし訳なさを感じました、いや蒲田にこれを！と更に強い気持ちになりました。

蒲田にはご高齢のご夫婦やお一人暮らしの方が多々お住まいです、たとえ話が50㎡のマンション所有でお住まいの夫婦二人だと広すぎるし不便な事が多いと感じていたとすると38㎡と少し狭くなるけど差額分で入居経費を賄うなど工夫できれば大変素晴らしい財産の移行ができるのではないのでしょうか！

蒲田で生まれやむなく他の街に越したKさんですが蒲田にこれを導入してくれるなら是非とも蒲田に戻りたいと応援の言葉を頂きましたがここは不具合はないのでは？と尋ねたら、**熱海は最高だけどやはり生まれ育ったまちで暮らしたいのが本心だよ、君たち若い人にとっても親に会うのに高速道路にのって行くより同じ町に住んでいた方がよいでしょ？**しかも同じ建物に親が住んでいたら毎日顔を見せにきてくれるでしょ？・・・と本音をお聞かせ頂きました、高齢者ケアの住宅のポイント『**住み慣れたまちで昔ながらの付き合いを続けられる**』という事がやはり一番ではないかと考えさせられました。

私達の**大街区構想ではこのような高齢者ケア付き住宅も数フロア考案**しており目玉の一つと考えております、私達は本気なのです。このニュースを見て頂きご興味を持った方はぜひ勉強会に見学に来てみませんか！私達はみんなのまちをみんなで良くするのは当たり前と考え話し合いを広めていく協議会です。



今回は公園を見つめ直し形を変えても意味をなすストリートパークをご紹介します お楽しみに！

●● 次回の勉強会

4月20日(月曜) 午後3:00 ~ 4:30 会場：蒲田八幡神社 社務所 (大田区蒲田4丁目18番18号)

【お問合せ先】京蒲第二協 事務方担当：河野・谷川 大田区蒲田3丁目19番4号 ☎03-3737-0528

<http://mirai-kk2m.com>

発行・編集 京蒲第二協 発行日：平成27年3月31日